

# 地域の魅力 ふる里再発見

## かきざきはきょう 蠣崎波響と門人たち

- 4 -

今回「蠣崎波響と門人たち」展を開催するにあたり、市民の皆さまのご協力も得ながら、地域に残る蠣崎波響や熊坂適山、関連する画人たちの作品を探しました。そのよ

うな中、熊坂適山のとある作品1点を再発見しました。それは昭和26年に保原小学校で開催された「熊坂適山先生遺墨展」(保原美術同好会主催)の目録に掲載されていた「山水図」(伏黒公民館蔵)の掛軸です。作品の写真が残っているわけでもなく、その他関連書籍にも図版が掲載されてい

ないかと思われ、長らく内容や現所蔵者が不明の作品でした。伊達東地区交流館の前身が伏黒公民館だったため、おそらくここにまだあるのではないかと考え、交流館の人に尋ねるとすぐに出できました。作品は縦184・5センチメートル、横125センチメートルという大きなサイズで、ごつごつした岩肌を持った、高くそびえたつ険しい山を描いた水墨画でした。落款(サイン)には「適山元」と書かれています。

箱が無かったため、長らく巻いたままの状態で置かれていたことから、表装や作品そのものに破れやシミなどの劣化が見受けられます。そのため修復を施し、今後は美術館で保管することに決まりました。修復といっても、のりやハサミで切り貼りするような簡単なものはありません。少しでも力を加えようとぼろぼろになってしまふような作品を、熟練した技術を持つ表具屋さんが現状を見極め、壊さないように丁寧に表装から剥がしてシワを伸ばし、新たな表装を付けなおす、というものです。

7月28日(火)からスタートする第Ⅱ期展覧会初日までに修復が完了する予定です。公開されるのは今回の展覧会で75年ぶり、かつ修復後初お披露目となります。どのような作品か、お楽しみに！

「ふるさと」は、遠きにありて思ふものとして悲しくうたふもの」



熊坂適山「山水図」(修復前)



市長コラム 第85回

### 「伊達市のふるさと会」

過去の  
コラム



須田博行

これは、金沢市出身の詩人室生犀星の有名な詩の冒頭の句です。望郷の思いを綴った詩と聞いていますが、そうとばかりは言えないようです。東京から金沢に帰省した室生でしたが、懐かしいはずの故郷は必ずしも温かい場所ではなかったようです。疎外感にさいなまれ二度と帰るまいと誓う、そんな室生の悲しく複雑な思いが込められていることを知りました。しかし、そのあとに続く「ひとり都のゆふぐれに ふるさとおもひ涙ぐむ」の中に、複雑な思いがありながらも故郷への思いが込められていると感じました。

さて、伊達市出身者の首都圏での会として「伊達市のふるさと会」があります。去る6月14日、東京で総会が開催され、今年も多くの皆さんが元気に参加されました。

「故郷を離れて60年、伊達市に親戚もいなくなったけど、元気なうち

は訪ねたいと思っています」。「区民会館に福島県の地元紙が置いてある。伊達市の記事が出ているととてもうれしくなる」。「同郷でも会えるのは年に一回だけ。毎年この日を楽しみにしている」などなど。話していると、同じ小学校だったり、遊んだ場所やお祭りのことなど、何十年経っても変わらない共通の話題で大いに盛り上がりました。

特に印象に残ったのは、「学校を卒業して東京に出て就職した。当時は地元に通う場所がなかった。こちらでの生活は充実していたが、ふるさとの山や川、田んぼの風景をいつも思い出していた。本当を言えば地元に残りたかった」とのお話でした。当時と今は時代背景が大きく違いますが、就職などで伊達市を離れることとなる若者には、「ふるさととは遠きにありて」ではなく、いつも近くに感じ、いつも温かく迎えてくれて、いつでも帰ってこられる場所にしていきたいと、ふるさと会に参加して強く思いました。

編集・発行 伊達市総務部企画課 令和8年6月25日発行 NO.245  
〒960-0692 福島県伊達市保原町字村橋180番地 TEL024-575-1113 FAX024-575-2570 印刷 製本 株式会社 CIA